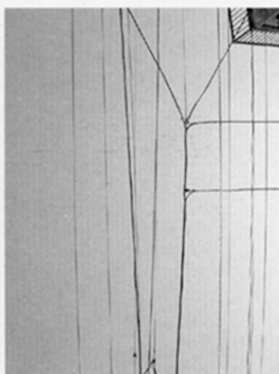




地下鉄東西線高田馬場駅の空調

ホーム端にある大きな空調の吹き出し口。全面から音が発生し、まるで滝が落下しているかのように聞こえる。



電線

風が吹くと、その強弱に応じて、さまざまに唸る電線。現代のエオリアン・ハーブ。



上野アメ横路地

建物に挟まれた路地に、約20個もの大きささまざまな機種の空調機の換気口が、向かい合って密集している。お互いに吸気・排気をし合いながら、両壁面間で空気のヴァイブレーションは増幅する。



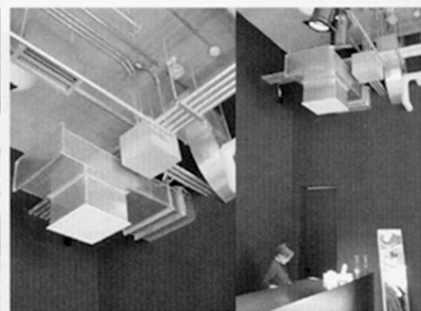
ビル・フォンタナ〈ブルックリン・ブリッジ〉

橋を支えているワイヤーなどに発生している、さまざまな振動をマイクで拾い、その音を会場に集めて聴くというインスタレーション。日常のスケール感覚では意識することのない、都市の巨大な構築物全体を、音を通して経験する。



パウル・バンハウゼン〈ロング・ストリングス〉シリーズ

建築空間に長いワイヤーを張り、そこに電氣的に振動を与えたり、自ら弓や手で擦って音を発生させるパフォーマンスを各地で行なっている。そのことによって、空間の建築上の意味を変容させることを目指している。写真は「3分間の沈黙のために」のもの。



代官山「I.S.」店舗内の空調設備

店の一角にある空調設備が発する機械音が、店内に流されているBGMとオーバーラップすることにより、複雑な響きの変化をもった新たな「音楽」を創出している。特にミニマル・ミュージック系のBGMの場合、そのズレや重なりが興味深い。



ビル&マリー・ビューケン〈ウインド・アンテナ〉

サンフランシスコ
直径2.4mの傘に張られた60本のステンレスの弦が、風で共振して鳴る音響彫刻。風の強さによって、低い唸りや繊細な笙のような音まで、変化の幅は広い。

図版出典:

- パウル・バンハウゼン〈ロング・ストリングス〉シリーズ
日本・オランダ現代美術交流展「3分間の沈黙のために」
(2001年4月15日-5月6日、十思スクエア)におけるインスタレーション
「A Class on Mechanical Gagaku Music Electric Sound System」より
ICAEE©2001
- ビル・フォンタナ〈ブルックリン・ブリッジ〉
<http://www.endex.com/gf/buildings/bbridge/bbgallery/bb3/bb002485.jpg>

08. 都市のヴァイブレーション

都市空間を満たす、空気のヴァイブレーション。

それは、風の動きとなって電線を振動させ、生暖かい風とともに空調の室外機や排気口からアウト・プットされる唸りとして、都市空間を満たしている。

例えば、空調が屋内ではかすかに音をたてている程度なのに、屋外では室外機を通して都市にヴァイブレーションを発生させているように、通常、唸りや振動はノイズとして排除されている。しかし、それらは都市の活発な活動をしめす、いわば都市の呼吸音のようなものだ。

ミニマル・ミュージックの作曲家として知られるラ・モンテ・ヤングは、少年時代アラバマの広大な自然のなかで丸太小屋に住み、送電線が風に唸る音を耳にして育った。

その体験が彼のドローンを中心とした音楽のルーツとなったのだという。

ヤングが耳にしたような、送電線が生み出す変化にとんだ音を都市の電線から大きくくことは、それほど多くないだろう。だが、風が空間を縦断するケーブルを振動させ、音を生み出すイメージは、振動を視覚化するものとして都市のイメージを形成しているのではないか。